



**SORAK Development Agency**  
Registered NGO: No:8726

UEB Zone ,Church Road –Mullago;P.o Box, 71883 Clock Tower –Kampala;Tel:+256 703515225  
Mubende Office: Lusalira T/C, 16km from Mubende Town along Mubende –Fort portal Road



NPO法人グローバルブリッジ ネットワーク  
**Global Bridge Network**

生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業  
(ウガンダ共和国)

活動期間 2019年7月～12月

活動：ラジオの出演と動画作成による月経時の衛生管理について意識の啓発を実施した。

日時と場所

日時	活動	場所
2019年7月3日	動画の撮影	SORAK 事務所
2019年7月4日		
2019年7月15日	ラジオトークショー	Heart FM 局
2019年7月22日		
2019年7月31日		
2019年8月7日		
2019年8月14日		
2019年8月21日		
2019年8月28日		
2019年9月4日		
2019年9月11日		
2019年9月18日		

はじめに

本レポートでは、女子生徒が月経時の衛生管理を適切に行い学校に通い続けられることを目的に SORAK が実施した二つの活動について報告する。一つ目は、再利用可能な生理用布ナプキンの作成方法を説明する動画の撮影である。動画は 200 本 CD を作成し、他のパートナー団体 Visionary Lady Foundation と Hope for Future Foundation に共有し、それぞれのコミュニティ（パリサおよびエンテベ）に配布する計画である。

二つの目の活動としては、ラジオのトークショーに 10 回出演し、さらにはラジオ CM の放送を通して月経時の衛生管理について意識の啓発を行った。ラジオでの活動を通して、より多くの人々に本プロジェクトについて知ってもらい、また再利用可能な生理用ナプキンの利便性について理解してもらう事が狙いである。ムベンデ県の中心地にある Heart FM 局にてラジオトークショーを 10 回を実施し、またラジオ CM を 1 日 4 回流した。

トレーニング／活動目的

- 本プロジェクトでは、SORAK がトレーニングのために実際に訪問できないような場所にいる他の組織やコミュニティの人々を対象に、またはプロジェクトの終了後も活動が継続されることを目的に、

再利用可能な生理用布ナプキンの作成を撮影した動画（CD）を通して作成方法を身に付け、月経時の衛生管理について意識を啓発することである。

- プロジェクトの普及を図り、また安価な再利用可能な生理ナプキンが、使い捨てのナプキンの代替品として最も適切である事を広く知ってもらおう。
- 本活動を通して、再利用可能な生理用布なナプキンを普及させ、特に女子学生が学校に通うことができるようにする。また、保護者を啓発し、娘に生理用ナプキンを与えて、学校を中退しないで学業を修了できるようになることを目指す。

## プロジェクト対象の地域住民

ラジオトークショーでは、プロジェクト対象地域の住民だけでなく、ラジオの放送地域であるより広範囲の地域の住民も対象となる。プロジェクト対象地域であるムベンデ県の、特にチバリング副郡の住民はもちろんのこと、近隣のケゲグワ県、ケジョジョ県、キバレ県、カガディ県、カクミロ県、キャンクアンジ県、キボガ県、カッサンダ県、ミティアナ県、ムピジ県、ゴンバ県、センバブレ県、ブクマンスンビ県の地域のリスナーにラジオのトークショーや CM を届ける事ができた。上記の地域の人口は400万人であり、その中でもリスナーはラジオのリスナーは約100万人である。

## ファシリテーター

1. ムハンマド・ケユン：SORAK 代表
2. ナルワンガ・シャミム・ゴンベ：SORAK プログラムマネージャー
3. ナカレンベ・ビオラ：SORAK プロジェクトアシスタント
4. ビヤンシ・ダウディ：ラジオマネージャー
5. バビリエ・マリア・ゴレッティ：再利用可能な生理用ナプキン作成担当

## 活動

下記の通り、ラジオを通じた活動と動画作成の2種類の活動を実施した。

### ラジオを通じた活動

下記の通り活動を実施した。

1. Heart FM 局で本プロジェクトの紹介をして、放送時間の予約。
2. ラジオ CM の作成。  
今回作成した CM は、女の子が保護者に「学校にちゃんと通って教育を受けられれば、弁護士や医者にもなる事ができる。生理用ナプキンがあれば、あらゆる可能性が広がる」と話しているラジオコマーシャルである。この CM は、一日3回、半年に渡って放送された。
3. 再利用可能な生理用布ナプキンの利点を説明。  
例えば、
  - 安価である。
  - 簡単に使える。
  - 健康に被害を及ぼす副作用がない。
  - ゴミが出ないので環境に優しい。学校のトイレがゴミでいっぱいになる事もない。
4. リスナーからの質問とそれに対するフィードバック。  
リスナーから SORAK 宛に下記のような質問が届き、回答した。
  - 再利用可能な生理用ナプキン「Happy Pad」はどこで購入できるか？
  - SORAK は今後より多くの地域の人々へトレーニングを行っていく計画はあるか？
  - ゴンバ、スンバブレ、カクミロなどの県まで SORAK が出向く計画はあるか、またいつ訪問してもらえるか？
  - SORAK の活動は賞賛に値するものであり、この重要な活動を今後も続けて欲しい。
5. ラジオに出演した SORAK のメンバーは、下記のようなテーマについて話した。
  - 月経時の衛生管理とは何か。
  - 誰が月経時の衛生管理を行うのか。

- 女子・女性が適切に衛生管理を行うためには、何をすればいいか。
- 姉妹や娘の月経に対して、男子・男性はどのように手助けできるか。
- 使い捨てのナプキンに比べて、再利用可能な生理用ナプキンの利点について。

## 動画撮影

1. 動画撮影のための備品の準備。
2. 視聴者が布ナプキンを作る際にどのような素材を選べば良いかわかるように、各材料の説明。
3. 視聴者が、一貫して均一な大きさの製品を生産できるように、採寸方法を説明。
4. 型紙を使いながらそれぞれの生地を裁断する事で、同形のナプキンを作成する説明。
5. 生地を順番に重ねていく工程をみせる事で、視聴者が正しい順番で縫い合わせするよう説明。
6. かがり縫いをする事によって、再利用可能な「Happy Pad」ナプキンの強度が増し、長持ちする製品になることを説明。

## ～動画のリンク～

<https://www.youtube.com/watch?v=q6OngzqBIIA&fbclid=IwAR1SWY0LbhYTdaU1Orcavob8Mdm1p8ukOYU5q8RnoVAQuhjVOPIA8Ub2ZkQ>



Heart FM 局のリスナーに、SORAK 代表が再利用可能な生理用布ナプキンのプログラムスケジュールを説明している。



SORAK メンバーのシャミムが、月経時の衛生管理についてリスナーからの質問に答えている。



Heart FM 局「Voice of Hope」に SORAK の 3 人が出演し、月経時の衛生管理について話している。



動画撮影。右のシャミムと左のバビリエが自己紹介をしている。



再利用可能な生理用ナプキン「Happy Pad」に使われる材料を提示している。



それぞれの素材の役割について説明している。



メジャーを使って布ナプキンの形を紙に書いていく。



寸法について説明。



生地を裁断する。



生地を重ねて縫い合わせる。



かがり縫い。



「Happy Pad」布ナプキンの完成品。

## 成果

- 1- ラジオのリスナーと、SORAK の「Happy Pad」を使った人々は、女子が学校に通い続けるために使える再利用可能な生理用ナプキンを高く評価していた。ラジオに出演した際の反響の多さが、この事を裏付けている。一時間のトークショーの間に、平均して 25 件もの電話があった。
- 2- 動画を視聴する事によって、女子・女性は再利用可能な生理用ナプキンについて学ぶ機会を得た。またこの動画は、活動報告と一緒に **Global Bridge Network** にもシェアしている。**Hope for the Future** と **Visionary Lady Foundation**、また **SORAK** が活動対象地域とするムベンデ県の学校へ、動画をシェアした事で多くの女子・女性に届ける事が出来た。

## 主な課題

1. 本プロジェクトが活動対象としていない県や準郡からも多くの要望を受けているが、他地域まで活動を広げるための予算が足りない。
2. トークショーへのフィードバックとして、再利用可能な生理用ナプキンを作成する材料を **SORAK** が購入して提供する事を続けて欲しいという要望があった。

## 提案

1. 再利用可能な生理用ナプキンの作成のトレーニングを必要としている他の準群でも活動できるように、本プロジェクトの範囲を広げていくべきである。
2. **Heart FM** 局のリスナーから、現在プロジェクトの対象となっていない地域のコミュニティへ活動を展開するよう提案があった。

## 結論

今回の活動を実施する事で、女性・学校の子ども達・教員に大きな影響を与える事ができた。また、プロジェクト対象者だけでなく、対象外の方たちからもサクセスストーリーを聞く事ができた。このようなプロジェクトを実行するため経済的にサポートしてくれている **Global Bridge Network** に心から感謝の意を表す。